

A_土地の勾配を逆手に取った住まいは、木立に寄り添う隠れ家のような。極力高さを抑え、屋根勾配も緩やかにすることで、自然と馴染むフォルムに仕上げた。傾斜地の家は、内側も面白い。1階の寝室とLDKは3段のスキップフロアで繋げ、目線の高低差と立体感を演出した。 B・C_寺島さんは、ストーブに使う薪づくりもお手のもの。「このあたりは植生豊か。希少な山野草の宝庫なので、楽しみが尽きません」



No. **03**
Example Report.

Builder:
寺島工務店

Note:
長野市 / 寺島邸
家族構成 / 4人

“長生き”する家に 住み続ける幸せ

15年の歳月を経ても
老朽化しづらい
WB工法の家

標高約1000mの飯綱高原。木立の隙間から覗かせるその姿は奥ゆかしく、森の風景にひっそりと溶け込んでいます。

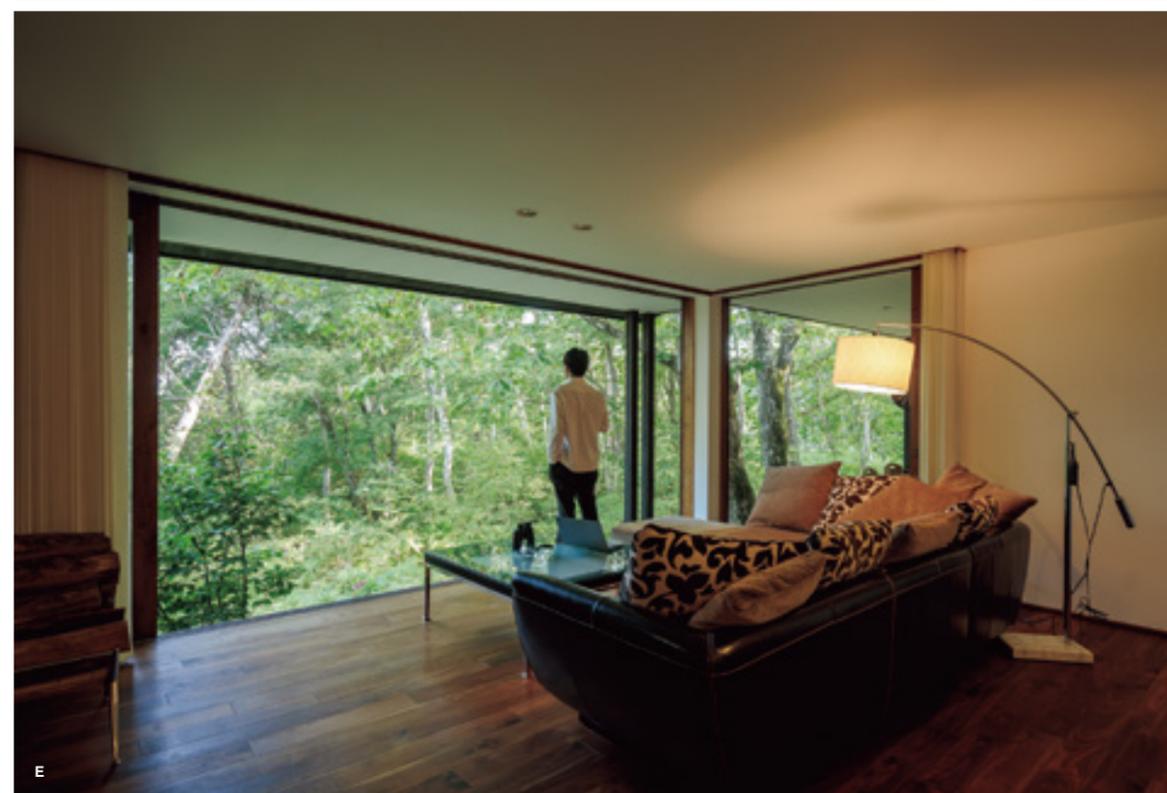
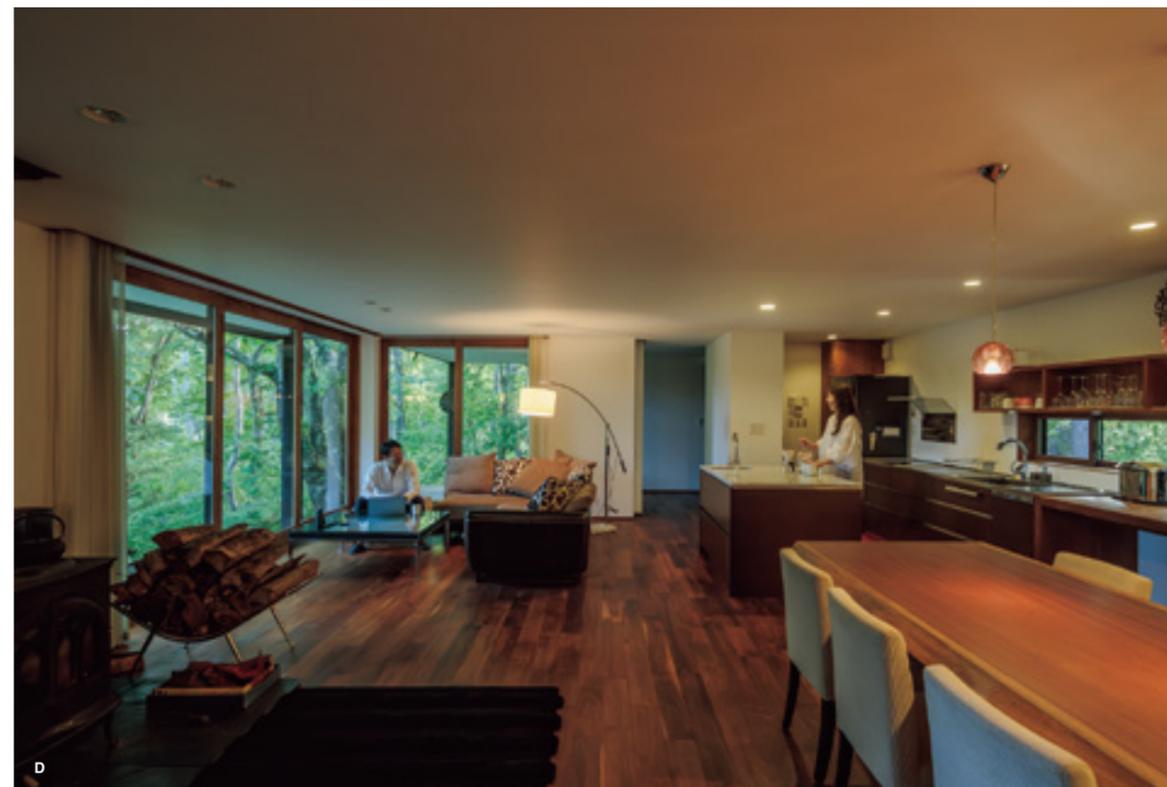
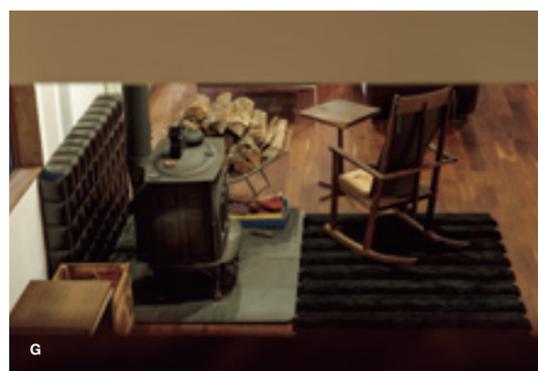
ここは寺島工務店の社長、寺島さんのセカンドハウス。同社が初めて手がけた「WB工法」

による住まいで、人も建物も健康やかで快適な状態を保てるWB工法の性能を、実証するために建てられました。

「一年中、湿度は65%前後。もう15年経ちますがカビや結露とは無縁です。カビや結露がなければ家は傷みにくく、長持ちするんですよ。湿気の多い森の別荘地にも適しています」と寺島さん。壁の中に空気の通り道をつくり、室内の湿気を屋外に逃がすことで湿度を一定に保つWB工法は、湿気と共に臭いや化学物質も排出。機械換気に頼らない、深呼吸したくなる健康やかな住環境を叶えました。

WB工法は、夏冬の快適さをももたらします。夏は床下と天井裏の温度差が大きくなり、壁の中に上昇気流が発生。床下の冷えた空気が天井裏まで上り、屋根裏の熱と共に屋外へ抜けることで、熱の影響を受けにくく、エアコンをそれほど使わなくても過ごしやすい室内になります。冬は形状記憶合金のパネを使用した通気口が気温によって伸縮するため、寒くなると換気口が自動で閉まり、魔法瓶のように室内を暖かく保ちます。

家は「快適に住み続けられること」が何より大事。夏も冬も過ごしやすい、耐久性が高い。この家は住むために欠かせないものを余すことなく備えています。



自然素材や伝統工法に職人の魂を吹き込む「本物の」家づくり

この家は、自然素材の家でもありません。壁はビニールクロスで覆わず、空気や水蒸気が透過する水性塗料を使用。通気性のある壁でなければ、空気の通り道が役に立たないからです。建材には、良質な根羽村産のスキヤヒノキを活用。昨年、県内の工務店をつくる「長野WB工法友の会」会長として、根羽村森林組合・長野県と、県産材の利用促進に関する協定を結んだ寺島さん。県内初となる締結を機に、地産地消の家づくりをより一層進めていく構えです。

そして寺島工務店といえば、社寺建築で培った伝統の技術。一つとして同じものはない木の癖を見極めて「一つひとつ加工、金物を使わず」「仕口」「継手」と呼ばれる伝統技術で大きな木材同士を接合します。「2014年の大きな地震の時も、家の被害はありませんでした。伝統工法の家はやっぱり頑丈ですね」と奥様。耐震性という点において、

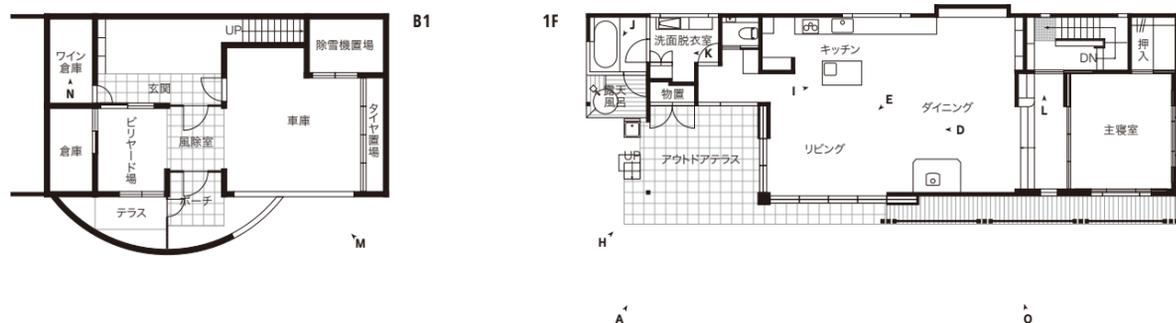


伝統工法が理にかなっていることは、何百年の歳月を重ねてきた神社仏閣が証明しています。こうした伝統の技を住宅に応用することで性能だけでなく、デザイン性にも優れた寺島邸。抜け感のある大空間に、森の息吹を取り込みました。多忙なご夫婦にとって、ここは非日常。喧騒から遠く離れ、鳥のさえずりや雨音に耳を澄ませる。淹れたてのコーヒーの香りに、心を寄せる。そんなささやかな幸福を、この家が教えてくれました。

D_LDKはワンフロアの大大空間。部材同士を三角形に繋ぎ合わせた「トラス構造」により、建物の強度を確保した。E_フルオープンにできる特注の窓が、飯綱の森と一体になる心地良さを運ぶ。F_近代的なデザインでありながら、使用されている木材はすべて熟練大工の伝統技法で丁寧に仕立てられている。G_ロフトから見下ろすリビングの一角。「雪の日には、しーんと静まり返った家の中で、何もせずに暖炉の炎を眺める。至福の時間です」H_窓の向こうはアウトドアテラス。ここで朝ごはんを食べたり、ゲストを招いてBBQをしたり。一歩外に出れば、自然と遊ぶ豊かな時間が広がる。I_奥様のこだわりが詰まったオーダーメイドのシステムキッチン。「パンづくりのために作業台の天板は、生地の温度管理がしやすい天然大理石にしてみました」



PLAN



DATA

敷地面積 1044.35㎡ (315.28坪)
 延床面積 225.19㎡ (67.98坪)
 1F面積 141.70㎡ (42.78坪)
 BF面積 83.49㎡ (25.21坪)

工法/木造在来軸組工法+RC工法 基礎/ベタ基礎+布基礎 構造材/柱:ヒノキ、梁:ヒノキ・スギ・アカマツ、土台:ヒノキ 断熱材/屋根:ネオマフォーム100mm、壁:ネオマフォーム50mm、基礎:スタイロフォーム50mm+外張りEPS100mm 主な外装仕上げ/屋根:ガルバリウム鋼板 立ハゼ葺き、外壁:信州カラマツ板タテ張り 主な内装仕上げ/天井:EP塗装、壁:EP塗装、床:ウォールナット無垢材 開口部/木製造作サッシ Low-Eペアガラス(アルゴンガス入り) キッチン/タニコウ キッチン熱源/IHクッキングヒーター バスルーム/タイル張り 暖房の種類/床暖房+薪ストーブ+パネルヒーター



Owner:
寺島さんご家族

Q1. 家づくりで一番大切にされたことは?

飯綱の自然との一体感。傾斜地を利用した地下1階・地上1階建てにすることで、周辺環境に馴染む平屋のような外観に。

Q2. こうしておいてよかった、と思ったことは?

照明計画にこだわったこと。人が集まるところは明るく、そうでないところにはあえて陰影をつくり、落ち着く空間にしました。

Q3. このビルダーさんに頼んでよかったことは?

素人の私には分からないけれど、難しい要望もあったはずですが、それを叶えるために、全力を尽くしてくれました。(奥様)



Builder:
上田営業所所長/安藤 正高さん

Q1. この家のコンセプト、ポイントは?

緑と一体になる。リゾートホテルのような非日常感。人が快適に暮らせる機能性も、しっかりと備えました。

Q2. この家の見どころを3つに絞るなら。

WB工法による室内の健やかな空気環境、ワンフロアの開放的なLDK、長野県産材ならではの心地よい質感と美しさ。

Q3. 家づくりで一番大切にしていることは?

魂の入った家づくり。住み続けることで風合いや味わいが増し、家族の軌跡となって育っていくような家をつくれます。



N

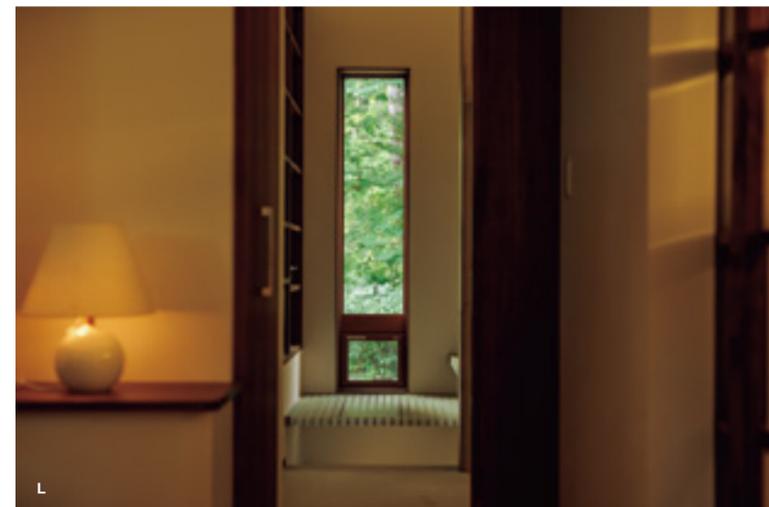
J_2面の大きな窓から緑を愛でるバスルームは、寺島さんのお気に入りの場所。「あえてブラインドは下ろさない。露天風呂みたいな開放感ですよ」。今後は、屋外に五右衛門風呂をつくる計画もあるそう。K_造作の洗面台や曇らない鏡など、こだわりが詰まった洗面脱衣室。L_リビングの大開口だけでなく東西南北に窓があり、自然や季節の移ろいをどこにいても感じられる。M_コンクリート打ちっ放しの玄関は、まるで森の美術館のよう。画家・越ちひろが最初に手掛けたライブペイント作品に出迎えられる。N_ワインセラーは年中ひんやり。空調を使わずとも、室温15~16℃・湿度70%という安定した地下室ならではの環境を利用している。O_何もしない贅沢を味わう。「そういう時間が、なんかいいなって思うんです」



J



K



L



M